

太鼓台祭りの由来

今より約430年前の天正11年(1583)顕如上人が本願寺を紀州鷲森より貝塚に移されました。これを祝して貝塚の住民は三日三晩踊り明かし、感田瓦明神の氏子達も、ハシゴらしきものの上に太鼓を乗せ、竹笹を立て、担いでまわったのが太鼓台の始まりと言われます。

俗に貝塚宮と称される感田神社の夏祭りに、太鼓台が担ぎ出されたのは、今から約280余年前の寛保元年(1741)のお祭りからであり、泉州地域において最も古い太鼓台祭りです。(諸説あります。)

祭礼には、中北町・近木町・大北町・西町・中町・堀之町・南町の各氏子町から7基の太鼓台が担ぎ出されます。16日は宵宮として、家ごとに献灯やまん幕が張られ、翌17日の本宮でも、太鼓台は前日に引き続き「ベーラベーラベラショッショ」の掛け声にあわせて勇壮に市中を練り歩きます。

寺内町について

貝塚の寺内町は、願泉寺を中心に発達してきました。

天文14年(1545)に無住であった草庵に紀州根来寺からト半齊了珍が迎えられ、一向宗の町づくりが始められたことが、寺内町建設の起源です。

天文24年には大坂本願寺から寺内町に取り立てられましたが、天正5年(1577)の織田信長との戦いでは焦土と化しました。

その後、寺も町も再建され、天正11年(1583)から2年間は本願寺顕如上人が紀州鷲森から寺基を貝塚に移したことによって一層の発展を見ました。

戦国期の兵乱を乗り越えて江戸時代には町はト半家を領主とする寺領とされ、また諸役免許の地として鋳物業をはじめ、櫛挽・醸造業・廻船業・薬種業などの商工業が発展しました。

地図の説明

- ① 感田神社……………貝塚寺内町の産土神
- ② 願泉寺……………貝塚寺内町の中心寺院
- ③ 御坊前の町並……………門前寺やト半家の重臣、並河家住宅が残る
- ④ 堀之町の町並……………貝塚寺内年寄利齋家住宅が残る
- ⑤ 御下筋……………ト半役所の門前
- ⑥ ト半役所跡と姫松……………姫松伝説の地
- ⑦ 北境川と尾食家住宅……………貝塚寺内町の北の境界
- ⑧ 中北の町並……………江戸時代の土蔵や酒蔵があった
- ⑨ 西町の町並……………貝塚浦の繁栄を偲ぶ
- ⑩ 清水橋(紀州街道)……………寺内町の出入口
- ⑪ 上善寺……………南朝遺臣橋本正高の墓所
- ⑫ 妙泉寺……………寺内町唯一の日蓮宗寺院
- ⑬ 新地の町並……………大正建築を今に伝える
- ⑭ 要眼寺……………門前五か寺の一つ

太鼓台のかつぎ唄

ベーラ ベーラ ベラショッショ

信濃屋のお半さん、石部のお宿で仮枕

石山の秋の月、牡丹に唐獅子竹に虎、虎追うて走るは和藤内、

和藤内お方に知恵貸そが、知恵の中山清閑寺、清閑寺の和尚さん坊さんで、

ぼんさん蛸さんしゅうろべさん、卵のふわふわ上りんげ、

今日は精進あしたにしよ、

ショショマカ ショショマカ ショッショッショ

～ 寺内町めぐり道 ～

